

武蔵大学の学生食堂が生まれ変わります —隈研吾氏による「2号館」リニューアル、2025年春完成予定—

武蔵大学（東京都練馬区／学長 高橋德行）は、第4次中期計画（2022～2027年度）に基づき、学内施設整備の一環として、「2号館」のリニューアル計画を進めています。現在の2号館は1980年に竣工し、学生食堂や講義の場として、長らくその役割を果たしてきました。

今回リニューアルするにあたり、設計は、日本を代表する建築家・隈研吾氏（隈研吾建築都市設計事務所）に依頼することに決定。新しい2号館は、木材を使用した暖かな統一感のある複合施設となる予定です。本学は、学生にとって快適なキャンパス空間を提供し、それぞれが自分の居場所を見つけ、対話を通して深く学び、世界で実践する、自立した人材の育成を目指します。

■ 新2号館・学生食堂のコンセプト

1. 「つなぐ」がテーマ

分野横断的な知をつなぐ、伝統と現在をつなぐ、食と情報をつなぐ、街路と広場をつなぐ、など「つなぐ」ことで生まれる既存の建物との一体感や、学生の専門領域を超えた交流・協働・連携を促進します。

2. SDGsに配慮した空間

SDGs（持続可能な開発目標）に配慮し、森林資源の循環利用推進のため木材の積極的使用や、バリアフリーの設置などダイバーシティを包み込む柔らかな建築設計で、学生の居場所・活動スペースの確保を実現します。

3. アフターコロナの新しい学生食堂

屋内外一体のデザインでキャンパスライフの新しい拠点となることを構想。イベントホールとしても利用できる学生食堂の新しいスタイルを実現します。

■ 計画概要

- ・建設場所 江古田キャンパス内
- ・建築面積 建築面積 1200㎡、延床面積 4350㎡
- ・構造 鉄筋コンクリート造
- ・建物概要 地上5階
- ・施設内容 1、2階 エントランス、学生食堂、木洩れ陽テラス（仮）、ブリッジラウンジ、バリアフリースロープなど、
3階 事務室、4、5階 教室
- ・竣工予定 2025年春

※計画内容に変更が生じる場合がございます。

—報道関係者問い合わせ先—

武蔵大学 広報部 担当：増田・西（ますだ・にし）

TEL：03-5984-3813 FAX：03-5984-3727 E-mail：pubg-r@sec.musashi.ac.jp

■ 武蔵大学 日本で初めてリベラルアーツ教育を行った旧制高等学校がルーツ

〔アクセス：西武池袋線「江古田駅」から徒歩6分〕

武蔵大学のルーツは、東武鉄道や東京地下鉄道（現東京メトロ）など多くの鉄道事業に携わり「鉄道王」と呼ばれた根津嘉一郎（初代、1860～1940）が、1922（大正 11）年に私財を投じて創立した日本初の私立七年制の旧制武蔵高等学校。戦後の学制改革により、1948（昭和 23）年 4 月に新制武蔵高等学校、翌年に新制武蔵大学、新制武蔵中学校が開校され、学校法人根津育英会武蔵学園として現在に至る。一年次から 4 年間のゼミナール（小規模で対話型の授業を含む）が必修で「ゼミの武蔵」といわれる。

2012 年には、外国語や異文化を楽しみながら学ぶことのできる国際村 Musashi Communication Village（通称 MCV）を開校、キャンパス内留学の拠点とした。

2020 年 3 月には、ロンドン大学と武蔵大学とのパラレル・ディグリー・プログラムにおいて初のロンドン大学学位取得者を輩出、グローバル教育の更なる発展に力を注いでいる。

2022 年 4 月、学園創立 100 周年を迎えたこの年に、新学部となる国際教養学部を開校し、経済、人文、社会、国際教養の 4 学部 9 学科となった。

学長 高橋 徳行 〒176-8534 東京都練馬区豊玉上 1-26-1

